

京都学園大学

同窓会会報/プレ創刊号

私たちみんなの同窓会会報は、もう走り出しています。
会員みんなのコミュニケーション誌として、みなさん自身の手で大きくそだててください。

presentation issue **8月10日(1984)発行**

もう走り始めています。

最初の卒業生が巣立った昭和48年に同窓会が組織されて以来、現在では同窓生も約5000人を数える規模となっています。昨年には同窓会設立10周年を迎え、記念式典挙行、記念誌発行をおこないました。

そんな中で、同窓会として次の確かな一歩を踏み出すために、定期的な同窓会報発行をおこなうことになりました。同窓会報といっても、単なる会報、あるいは広報誌といったレベルのものではなく、同窓会組織全体のコミュニケーション・ツールとして、同窓会と会員、母校と会員、また会員と会員とをむすび、さらには同窓会の意志を母校にも積極的に伝えられるものとした。そんな広い視野に立った意義のある会報

にそだてていきたいと考えています。そこで今年秋の創刊号発行に先立って、この同窓会報をほんとうの意味での会員全員の生きたコミュニケーション誌とするため、またそのためには今後会員諸氏の積極的なご意見を寄せていただかなければなりません。そうした同窓会報創刊へのデモンストレーションとPRをかねて、今回のプレ創刊号となりました。

それぞれがそれぞれの立場でご活躍され、忙しい日々を過ごされている同窓会員のみなさん。この同窓会報を、みなさんの大切な心の糧のひとつとしてとらえていただき、忌憚のないご意見ご希望をお聞かせください。私たちの同窓会報は、もう走り始めています。同窓会員全員のあたたかい心と情熱で私たち自身のコミュニケーション誌をつくっていきましょう。みなさんの積極的な投稿をお願いする次第です。



なつかしい友、お世話になった恩師、学生時代の思い出話、スライドで紹介される母校の近況報告……。この日はやはり、みんな学生時代に帰って楽しいひとときを過ごし、最後に母校校歌を全員で歌って閉会となりました。そして散会後も、それぞれがグループとなって肩を組み合い、晩秋の京都の夕闇へと消えていきました。

なお式典の詳しい模様は、スナップ写真とともに、創刊号でお伝えする予定です。

同窓会10周年 記念式典挙行

昨春秋（昭和五八年）一月九日（京都ホテル）で同窓会設立10周年記念式典が盛大に挙行されました。

式当日、全国各地から駆けつけてきた同窓生、大学関係者、招待客など約三〇〇人が一堂に会し、記念式典、笑福亭松鶴氏を迎えての講演会、祝賀パーティーと、幾年ぶりの再会に時のたつのも忘れませんでした。



京都学園大学同窓会

〒621 京都府亀岡市曾我部町南条 ☎亀岡(07712)2-2001(代)

母校は、いま

大きく発展、見違えるほど変貌したキャンパス。



私たちの京都学園大学が開学されたのは昭和四四年四月のこと。第一回の入学者は二、三六名。開学式は秋、一月六日。それから早いもので、もう一六日を迎えるようになっています。開学数年後からは、毎年六〇〇人以上の入学者を迎えるようになり、それらの学生たちは次々と社会に巣立って、同窓会員となりました。今年三月には第一期生四七四名を送り出して、現在、同窓会会員は累計四九四〇名の多数を数えるようになってきました。

さて、こうして同窓会員となった卒業生のみならず、いろいろな職場でそれぞれに活躍されているわけですが、時には母校学園大での学生生活を思い出されることもおありのことと思えます。

また時には同じ職場、同じ仕事の現場で友人と再会したり、クラブ活動の同士やチームメイトと会って話しかかれる機会もあることでしょう。しかし、ほとんどのひとが、母校を訪れる機会はありません。それはなぜでしょうか。そこで、今、母校がどのように変わっているかといえ、設立当初から見ると大きく変貌しています。そのもとも大きな変化は、たとえば洗心池の周辺がきれいになったこと、大教室や三号館の竣工、また立派な大学ホールや図書館ができたことなど、キャンパスが見違えるほど充実してきたことに見られます。また昨年四月に同じキャンパス内に女子の京都文化短期大学が開学したことも新しい変化を加えています。

みなさんの母校京都学園大学は、今このように、大きく発展し、卒業生の方々のご活躍を見まもっています。



学友会ニュース

後輩たちから、先輩のみへ。

今年も、第11月、学園大キャンパスで龍尾祭(大学祭)を挙ります。
★開催期間——11月1日(木)から4日(日)まで。
★テーマ——“Refresh” in Autumn
……いい感じに運たいね。
★主要イベント——前夜祭、仮装行列、文連オリンピック、演舞祭、ス

ポーツ祭(ソフトボール大会)、第7回学園寄席、クラブ対抗芸能合戦、音楽祭(ゲスト未定)、宝さがし、もちつき大会など。
テーマとして掲げているように、学生たちそれぞれの意欲的な参加のなかで、今現在の自己更新をはかり、この龍尾祭を私たち学生の自己主張の機会としたいと考えています。先輩のみならず、ぜひ龍尾祭に来て下さい。私たち後輩とともに、学生時代にかえって、たのしい一日をお過ごしください。



大学3号館増築

母校のキャンパスは、いろいろな整備がすすめられ、少しずつ変化しています。今年8月末日大学3号館が完成します。この3号館増築では、ゼミ教室、視聴覚教室を中心として、ほかに普通教室もつくられます。ときには、母校を訪ねてみてください。古い先輩の方々は、きっとキャンパスの変化に驚かれることでしょう。

同窓会報告

事務局より、会員みなさんへのご報告

同窓会では、母校の発展を願って、また会員相互の交流とコミュニケーションを深めるために、さまざまな活動をおこなっています。こうした同窓会活動へのご理解とご協力をお願いするため、最近の同窓会の動きについてご報告します。

★同窓会館建設構想について——私たちの同窓会も、

年々、新しい会員を迎えて、今年で5000人をこえる規模となりました。この会員増と今後の同窓会活動を考えると、どうしても、同窓会館の建設が必要不可欠なものとなってきます。この同窓会館の建設については、まだ構想段階で、なんら具体的な計画は進行していませんが、同窓会設立20周年を日処として、具体的な計画を煮つめていきたいと考えています。会員のみならずのご意見ご要望をお寄せください。

★同窓会設立15周年記念式典——昨年11月、同窓会設立10周年記念式典を挙行したばかりなのに、もう15周年式典の話がちらほら出始めています。5年ごとの節目となる記念式典

では、ただ単に会員があつまって懇談するだけではなく、記念講演やショーなどのイベントを計画しています。これについても、ご意見・ご要望をお聞かせください。

★その他寄附・援助活動について——同窓会では、いろいろな寄附や資金援助によって、母校をバックアップしています。昭和54年度には、大学設立10周年を期して会員のみならず寄附をお願いしましたが、この寄附金(約700万円)は、大学ホール及び図書館建設工事資金の一部として使われました。そして、キャンパスに藤棚を寄贈しました。ご協力ありがとうございました。また同窓会では、毎年、母校校友会と優秀クラブなどへの資金援助もおこなっています。

同窓会行事報告

★同窓会総会(昭和58年11月3日) 例年どおり、11月3日の文化の日に、総会を開催。今年も、11月3日に実施します。ぜひ、ご出席ください。

★同窓会設立10周年記念式典(昭和58年11月19日) 京都ホテルで、設立10周年記念式典を挙行。今後、15周年、20周年と、5年ごとに記念式典をおこなっていく予定です。

★会員名簿・10周年記念誌発行(昭和58年11月19日) 設立10周年を期して、会員名簿と記念誌を発行。会員名簿は、今後、4年ごとに改訂の予定。それまで、毎年、新会員名簿追加と正誤訂正を増補していきます。住所変更のさいは、事務局までご連絡ください。また、住所不明の方の消息をご存知の方は、ご一報ください。

これだけは知っておきたい。

あれこれNOTE

京都文化短期大学オープン

同窓生のみならず、同じ大学キャンパス内に京都文化短期大学が開学したことをご存知ですか? この短期大学開学によって、キャンパスは、今、かつてないほど華やかな彩りにつつまれているように見えます。

この短期大学の開学を知らなければ、学園大OBとしても知りということにもなりかねない。そこで本学入学案内パンフレットからの引用で、そのプロフィールを紹介しておきます。

「春の日の開花を待ちつづけたつばみのように、周到な準備期間を経て本学キャンパス内に設置された京都文化短期大学は、昭和五八年四月に、第一期の女子学生を迎えて開学しました。設置学科は、文化学科と経営学科の二学科で、文化学科は日本文化コースと情報文化コース、経営学科は秘書コースと企業実務コースからなっています。文化学科では、幅広い視野と高い見識をそなえた現代女性の育成をめざし、現代文化の基礎となつてきた伝統文化や生活文化の学習と、現実に対応できるような情報選択と情報処理に関する正しい知識・技能の習得に重点をおいています。また経営学科では、専門的知識のレベルの高い現代女性の養成をめざし、文書・情報など秘書実務の習得と簿記・会計などの基礎的な知識技能の習得に重点がおかれています。同じキャンパス内に、フレッシュな短期大学が誕生したことは、交流を含め、本学に新風を吹き込むものと思われま



は、いろいろご面倒をおかけした思いもあらうと思う。

その浦辻さん、昭和五二年にご退職なさって、今は長男ご夫婦お孫さんに囲まれて悠々自適の生活を送っておられる。近況はとお尋ねすると、「去年、同居の長男が家を改装、その工事が終つて、やっと落ち着くところ。この工事が家のタバコ店の店番に明け暮れる毎日ですな。」とのこと。浦辻さんは、健康のため、毎日、散歩を欠かさない。「毎朝九時半に家を出て、鳥丸通りを五条から北大路まで歩いていきます。帰りは地下鉄に乗ります。」この時間帯に鳥丸通りに出てみると、浦辻さんに会えるかもしれない。いつまでも御健康でいられることを祈りたい。



あ、浦辻辰次さん(元学生課長)は? かつて学生課長として、学友会活動やクラブ活動のお世話をしてくださった浦辻辰次さん。卒業生のみならず、

お世話になったあの人は……。

次回、創刊号(第1号)をご期待ください。

今年の秋、待望の創刊号が出ます。この同窓会報は、私たち京都学園大学同窓生のコミュニケーション・ツール。ふたたび、私たちの新しいコミュニケーションと出会いが始まるのです。

がんばっています! 未来の大家。



今、俳優として、TVタレントとして、大活躍。最近では「不良少女と呼ばれて」などのTV番組でおなじみの国廣富之さんに、あ

る日、電話でインタビュー。——俳優として、今、めざされていることは?
★そのときどきの時代が要求するもの、与えられるキャラクターに対して柔軟に生きていくことができる肉体とところをもちつづけたこと——
——学園大学では、どのような学生生活を?
★社会人になるまえの一時期、ほんとうに自由な学生生活。みんな、take it easyというのか、先の

ことは、あんまり考えなくて、愉快に過ごしました。
——その当時の友人とは、今も?
★ええ。京都に帰った時は、いつも呼び出して。東京で勤めている友人とは、ときどき会って、食事をしたり遊んだり。
——何か、同窓生として、学園大にのぞまれることは?
★いつまでも柔軟な思考と肉体をもって生きていくことができるひと。これからも、そんな若者たちを鍛える大学であってほしいですね。



★同窓会報発行の気運が盛りあがってくるなかで、どういふわけか、おまえが作れということになってしまった。ハイ、やりますと、うっかり答えてしまったのが今年の1月。そのうち、桜も散る季節となり、あつという間に6月、そして7月。やっ

ぱり仕事をもっていると、自由がきかない。1月当初の元気はどこへやら、理事のみならず平謝りの木、この方面のプロ、リクルートさんに助けってもらって、やっとプレ創刊号発行となりました。会員相互のコミュニケーション・ツールとしての

同窓会報にそだてていきたいと願っていますが、なにせ話のネタがないと記事構成もできないことも事実。そこで、みなさんからの熱烈投稿原稿、広範かつ積極的な情報提供をお願いしております。(佐川裕一、長沢義昭)

投稿お待ちします!

創刊号は、みなさんの原稿で。

この同窓会報は、みなさんの原稿によってつくられます。いろいろなコーナーへの投稿、近況報告、身近雑記、紹介したいひと、紹介してほしいひと、新しい企画提案など、みなさんの投稿、ご意見、お便りをお待ちしています。投稿・その他ご連絡は、下記の事務局まで。よろしく、お願いします。

京都学園大学同窓会事務局 621 京都府亀岡市菅我部町南条 0771212-2001(代)



▼もうそろそろ結婚したいと考えています。京都学園大卒の経営学上です。お問い合わせは、同窓会事務局まで。
▼投稿歓迎! みなさんのお便りをお寄せください。近況報告、おつかいひび、友人、恩師への伝言、呼びかけ、どんなことでも結構です。この伝言板をお便りに利用してください。

▼バレー部の先輩たち、そして菊徳幸君、元気でですか? ご連絡ください。(猿丸幸一、5664吹田市千里丘上7-16明香苑112号)
▼武田正幸さん、しばらくお会いしてませんが、お元気ですか? 今年も学園祭でお目にかかりたいものです。(道水茂樹)
▼バスケットボール部のみなさん、お便りください。(松本正裕、629-01京都府船井郡八木町大字八木小字杉の前34-1)
▼考古研のみなさんへ。ご活躍をお祈りします。(Y・S)
▼求む婚養子。連絡先は同窓会事務局まで。

伝言板

在校生から一言

大学に入学して2年目を迎える今、学生という温室に甘えているような気がします。今の世の中、何もせずただ黙っているだけで欲する情報が入手でき、その中で私達はさすがに過ぎて、その流れに身をまかせ生活をしているのではないのでしょうか。大学には「自由」があります。その「自由」というぬくもりだけを利用して、自分の成長のための「自由の時間」として利用することを忘れていないのでしょうか。「自由」であるという規律のない中で、自己を見

失うことなく自主性を見出していかねばならないのではないのでしょうか。物質的充足と精神的安楽に甘んじ、自己の存在と社会とのギャップという不安にさいなまれる中で、京都学園大学の建学精神である「自分で考え自分で行動できる人材」を認識していきたいと思えます。その上で、京都学園大学学生という誇りを持ち、自己の確立と個性の表現をめざし、卒業された諸先輩方に一歩でも近づけるよう勉学に励んでいきたいと思えます。



経営学科 2 回生
83 E 707
野越由久

卒業生ドキュメント

今、いっしょうけんめい、がんばっています。



東京本にて、左から社長斎藤雅久、会長のみなさん

学園大在学中、同じゼミで机をならべて学んだ二人の同期生が、それぞれに就職活動。そして偶然同じ会社に就職。入社説明会でパツパツ顔を合わせたこの二人。そこで、世の中広いよう、狭いなあ。

二人の勤務先——奥国ハウジング株式会社(吹田市)。その二人とは第一二期生(昭和五八年卒)の猿丸孝一さん(営業第一課勤務)、斎藤雅一さん(営業第二課勤務)。

このふたり、一回生の教養ゼミでも一緒だった。在学中、猿丸さんはバレー部で、斎藤さんは学生会でそれぞれ活躍した。現在、仕事の担当エリアは別々だが、同じ事務室で机をならべ、同じアパートの廊下をへだてた向いにお互いの部屋に住んでいる。だから、グチをこぼしたり励ましあったり、お互いに最高の同僚であり、よい意味でのライバルでもある。斎藤さんはカラオケが得意。猿丸さんは会社の野球部のエース。最近、彼女ができて、私生活も充実してきたとのこと。会社の仕事もようやく慣れてきたという二人、アイデアとセンス、フアイトで会社を背負って立とうとする夢も大きい。

★この卒業生ドキュメントのコーナーで紹介する卒業生の方をご紹介ください。自薦、他薦を問わず、ご連絡ください。

亀岡通信

歴史の宝庫亀岡から

母校京都学園大学のある亀岡市は、ご存知のとおり、京都府南部にある亀岡盆地の中心都市です。明治以前は亀山と呼ばれ、明智光秀の亀山城築城によって知られたとされています。この亀山城址は、現在大本教本部となっており、本学付近には、西国21番札所の穴太寺、円山応挙ゆかりの金剛寺、丹波一の宮である出雲神社、心学の祖・石田梅巖の生家な

ど、数多く名所旧跡があり、歴史の宝庫となっています。

今、時代は古代史ブーム。そこで注目されるのが、キャンパス裏の龍尾山のいろいろな発掘調査をおこなっているのが後輩たちの考古学研究会の活躍ぶり。古代史ブームの焦点が、奈良大和盆地から京都亀岡盆地に移る日も近いかもしれません。

こんな話、こんなことが
ありました。



学生時代には、いろんなことがあった。そんな中から、三つほど思い出してみました。今では考えられない突拍子もない話もありました。私が入学したのは昭和四五年。学園紛争がピークをこえたころだった。何月頃だったか忘れたが、ウソかホントか夢か幻か航空機学部がで

とだったらいい。しかし紛争も下火になり、そんな噂はいつの間にか消えてしまった。

入学した頃は二号館がまだ工事中で、本館と一号館と体育館、それに体育の授業はまず石拾いからという状態だったから、裏山などは人跡未踏の原始林——と言えば言い過ぎか。かなりブルドージャーが入っていたが、本館から二号館にかけてのすぐ裏はまだ山のままだった。入学してすぐ探検してみた。すると栗の木があるわあるわ。さすが丹波栗のふるさとだと、妙なところで感激した。秋の実りの季節を待ちかねたように、くもの葉をはらいながら裏山へ入った。友人と二人で、用意して来た皮の手袋やペンを、栗を拾いまくった。——今は昔のお話である。

きるといふ噂が乱れ飛んだことがあった。あの田んぼをつぶして滑走路をつくるそうだななどという話が、またしつやかにかさやかれた。ずっと後になって聞いた話だが、少しは本当だったようだ。他の大学は紛争で授業にならない。新設校で紛争のない学園大で学生を育てようというこ

裏山の思い出をもう一つ。あの裏山は古墳時代以前の遺跡なのだそう。入学した頃は、たしかに壺のかけらなど、いくらかも落ちていた。お天気のいいある日、散歩していると、土の中から半分程顔を出している、高さ二〇センチ程の灰色の壺を見た。平安博物館に入取りして貰った友人に鑑定を依頼したところ、古墳時代のものであることがわかった。千二、三百年の長い眠りから覚めて、壺がヒョコッリと姿を現したあたりも、今は学舎が建っている。

船野雄治(昭和四九年卒)

KBS 京都勤務